

腹腔鏡内視鏡

合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery

第20回 2019年11月20日

■ 2-6	胃 LECS/Classical LECS/LECS 関連手技のポイントとこだわりと限界 Tips, preference and limitation of laparoscopic procedures for classical LECS
	6. 腹腔鏡下胃内手術の術式変遷と手技の実際 Percutaneous endoscopic intragastric surgery: History and current technique

演者：金平永二（メディカルトピア草加病院外科）

Speaker: Eiji Kanehira, Department of Surgery, Medical Topia Soka

共同演者：谷田孝、金平文、高橋昂大、尾花優一（メディカルトピア草加病院外科）

当院が開設された2012年から2019年10月までに、腹腔鏡手術により治療した胃粘膜下腫瘍は347例であった。CLEAN-NETを導入した2015年12月から現在までの各術式の比率をみると、CLEAN-NET:38.9%、胃内手術:37.7%、ステイプラーによる単純楔状切除:21.7%、全摘または幽門側切除:1.7%であった。CLEAN-NETと胃内手術が大半を占め、両者は当科での胃粘膜下腫瘍治療戦略にとって重要な術式と言える。演者は1993年に胃粘膜癌に対し胃内手術を開始したが、現在では食道胃接合部の粘膜下腫瘍のみを適応としている。2011年までは経皮的に胃内に3ポートを刺入し行ったが、2011年に単孔式胃内手術を開発し現在に至っている。現在では標準法を単孔式胃内手術とし、腫瘍径が3cm未満のものに対し針孔式胃内手術（ポートサイズは2mm、2mm、5mm）を行っている。今回は胃内手術を中心に手技の詳細を供覧する。

・CLEAN-NET: Kanehira E et al. Surg Endosc. 2019 Apr

・Intragastric surgery: Kanehira E, et al. Surg Endosc. 2016 May

・Needlescopic intragastric surgery: Kanehira E et al. Minim Invasive Ther 2016 Aug